

「識字」は基本的な人権、

すべての人に教育を

—“識字”のことを考える

「識字」って何？

「識字」って知っていますか？あまり聞き慣れない言葉ですが、アジアやアフリカなどをはじめ世界の人々が直面している大きな、そして最も解決の難しい問題のひとつです。狭い意味では「文字の読み書きと計算ができる能力」を指していますが、ユネスコの定義では、「日常生活で用いられる簡単に短い文章を理解して読み書きできること」となっています。

世界には貧困、差別、戦争・紛争など、さまざまな理由で学ぶ意志があっても教育を受けられない人たちがたくさんいます。文字の読み書きや計算ができない状態にある人々のことを「非識字者」と表現しています。

日本にも文字の読み書きができない人たちがいますが、日本では「読み書き」ができて当たり前の意識が強いので、逆に、識字問題をしっかりとらえていないところがあります。

「識字」は人権

どうして識字が必要なのでしょう？差別や貧困が原因で学校に行けなかった人のため、同和地区で始まった「識字学級」の学習者の作文や文集などに、文字を通じたコミュニケーションができない「非識字者」であることの苦勞が、切実に表現されています。

例えば、手紙がきても、誰かに読んでもらわなくてはなりません。電車に乗る場合でも、料金や行き先、

のり場など掲示板の文字を読むことができず、誰かに尋ねなければなりません。体調が悪くても問診票が書けないことに気がひけ、病院へも足が遠のきます。

「識字」は、日常生活を支障なくおくるために必要な道具であると同時に、社会に参加していく力でもあり、また、人間の自信や尊厳を生み出す力＝「エンパワメント」(用語解説参照)でもあります。こうしたことにより、「識字」を身につけることは基本的な人権といわれているのです。

なぜ、「国連識字の10年」か

これまでも、1990年の「国際識字年」(用語解説参照)の取り組みなどがあり、国の大小を問わず、世界中の人々の「識字」に関する意識が高まったことは、大きな成果のひとつでした。しかし、「非識字」率を2000年までに1990年の水準の半分にすることが目標でしたが、24.7%から20.3%とわずかな改善をみたのみで、「識字」教育の分野では、満足のいく成果は得られず、大きな課題が残りました。

国内においても取り組みが活発に行われたところもありましたが、全体としてみれば地域差があり、全国的に広がったとは言えませんでした。

そのような中、「万人のための教育」をめざして、2000年にセネガルのダカールで「世界教育フォーラム」が開催されました。フォーラムでは、15歳以上の成人のうち、8億を超える人々が文字によるコミュニケーションができず、1億を超える不就学児童が数年後には非識字者となるという厳しい現実が明らかになりました。また、特に南アジアやサハラ以南のアフリカで女性の識字率が低いことも注目されました。女性の識字率が低いということは、女性の社会進出がさまたげられることにつながるのです。

そして、それと同時に、「ダカール行動枠組み」が採択され、2015年までに成人、特に「女性」の識字率を現状より50%以上向上させることを目指していくことになりました。

このことが大きな原動力になって、2001年の国連第56回総会で「国連識字の10年」の創設と

そうぞう

2

2003.6*No.5



「識字・日本語連絡会」のシンポジウム



ちゅうがっこう やかんがっきゅう がくしゅうふうけい
中学校の夜間学級は教育の原風景

かいし さいたく ねん だい かいそうかい こくさい
開始が採択され、2002年の第57回総会で「国際
行動計画」が大多数の国連加盟国の支持を受けて
成立。2003年から「国連識字の10年」が始まったの
です。

おおさか 「識字」の取り組み

おおさか しきじ と く ぶらくかいほううんどう へいこう
大阪での「識字」の取り組みは部落解放運動と並行
して、1953年から始まったとされています。

現在、11の中学校の夜間学級、識字学級、公民館な
どでの日本語教室やボランティアによる日本語教室
など、200以上の教室が開かれており、読み書きや
日本語による会話の学習などが行われています。

1989年から活動している「識字・日本語連絡会」
は、読み書きや言葉の学習に取り組む人たちがつな
がり、その学習を広げていくためにつくられた組織
で、府内33団体が加わっています。名称の中に、
「日本語」という言葉が入っているのが特徴で、最近、
日本語を学ぶことを必要とする外国人が増えてきて
いるためです。日本語は話せるけれども文字を習得
する機会を奪われてきた人と、新たに日本にきた
外国人の両者にスポットがあたってきたのです。そ
して、同連絡会をはじめ、行政や人権関係団体の協力
により、同年、大阪に「識字・日本語センター」が
開設されました。

もじ せいかつ たの 文字は生活の楽しさ

しきじ にほんごれんらくかい だい かいそうかい
「識字・日本語連絡会」の第14回総会とシンポジ
ウムが5月17日に大阪で開かれました。シンポジ
ウムでは、1989年にタイから来日した女性が「再び
勉強をはじめて」と題して、学習者としての体験を語
りました。

来日後、中学校の夜間学級で4年間、定時制高校で
4年間学び、3年前に卒業。「会話にも不自由しないし、
文字も読めるし、もう勉強しなくてもいいんじゃない
か」と思っていた矢先、アルバイト先でお客さんに
頼まれた領収書を間違っ書いてきたことから、「字を書
けない、読めない、生活の便利さ、楽しさがなくなる

ような気がした」と、識字・日本語学校で再び学び始
めることになったきっかけを打ち明けました。そし
て、「再び勉強を始めて、忘れてしまっていた漢字など
がよみがえるようになりました。うれしかった。私と
同じ立場の人がいれば、教えてあげられるようになる
まで、頑張っ勉強をしたいと思います」と目を
輝かせながら発表しました。

ちゅうがっこう やかんがっきゅう きょういく げんてん 中学校の夜間学級は教育の原点

しきじ かん にっぽん どうこう み うえ ひと か
識字に関する日本の動向を見る上で、もう一つ欠
かせないのが中学校の夜間学級の存在です。中学校
は義務教育ですが、その教育さえ保障されなかった
人たちが多くいます。中学校の夜間学級は、就学年
齢時に義務教育を受けられなかったり、学校に在籍し
ていても長期欠席や不就学だった人、外国の
人たちが、義務教育を受ける年齢を過ぎてから基礎
教育を受ける場となっています。

東大阪市立長栄中学校の夜間学級には、生徒83人
(5月1日現在)が在籍し、4クラスで学んでいます。
国籍は日本、韓国・朝鮮、中国、アフガニスタン、ベトナム
で、韓国・朝鮮の国籍を持つ生徒が最も多く、37%
を占めています。年齢は、30歳代から80歳代まで、
男性21人に対し、女性が62人となっています。

中学校の夜間学級の一日は5時過ぎから始まりま
す。50分授業が4時限あり、その間に給食があります。
教科は、国語・日本語に相当する「表現」のほか、歴史、
現代社会、民族、生活(生活全般に役立つ総合的な
学習)などがあり、高校進学希望の人には選択科目の
英語もあります。

薄暗くなる中、昼間の生徒たちと入れかわりに、年
配の生徒たちが次々に登校していました。生徒たち
は、「基礎的な読み書きが習得できたことで、今度は
資格を得る目標ができました」「学ぶ機会に恵まれて、
社会へ参加する自信ができました」「同じ目標を持つ
仲間と学ぶことは楽しい」などと、口々に語ってくれ
ました。学ぶ喜びをかみしめながら、自信を得た表情
にふれて、教育の原点を見たような気がしました。

しゅざい お ●取材を終えて

日本では「非識字率」の具体的な数値は出されていない
のが現状ですが、大阪で識字・日本語を現に学んで
いる人は6,000人以上とされています。

わたしたちは、ふだん文字が読めるということをも
前提とした仕組みのなかで生活しています。文字が
社会参加のために不可欠となっているのです。

「識字」…その学びが多くの人にとって自分の力
や自信を取り戻すこと — 人権文化の輝きにつな
がっているのだと、痛切に感じました。